

養護教諭の職務に対するニーズに関する文献検討

塚原加寿子¹⁾・笠巻 純一²⁾・横山 知行²⁾・松井 賢二²⁾・波多 幸江³⁾

- 1) 新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科
2) 新潟大学人文社会・教育学科系
3) 飯田女子短期大学家政学科

The Review of the Literature Cited the Needs of Yogo Teacher's Duties

Kazuko Tsukahara,¹⁾ Junichi Kasamaki,²⁾ Tomoyuki Yokoyama,²⁾
Kenji Matsui,²⁾ Yukie Hata,³⁾

- 1) NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF NURSING
2) NIIGATA UNIVERSITY INSTITUTE OF HUMANITIES, SOCIAL SCIENCES AND EDUCATION
3) IIDA WOMENS JUNIOR COLLEGE OF HOME ECONOMICS

キーワード

養護教諭、ニーズ、文献検討、職務

Key words

Yogo teacher, needs, review, duty

I はじめに

社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性の問題行動や薬物乱用、感染症など、新たな課題が顕在化している¹⁾。これらの健康課題に対応するため、学齢期の子どもたちの学校生活を支援する立場にある養護教諭の果たす役割も時代のニーズに応じて変化している²⁾。

現在、養護教諭は、救急処置、健康診断、疾病予防などの保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動などを行っている¹⁾。これら養護教諭の役割は、過去三度の答申や教員免許法の改正などにより、拡大・発展してきた。これは、養護教諭が目の前の子どものニーズにこたえてきた結果でもある²⁾³⁾。しかし、「広がりすぎた職務は、『多忙』を生みアイデンティティーを見失う事態に陥っている²⁾」との指摘や、「専門職と

しての自覚と誇りを失う⁴⁾」との懸念もある。三木が「養護は、時代や、人、社会情勢等に柔軟に対応できる職としての養護であるとともに、その根底に流れる、時代を超えて価値のある本質を忘れてはいけない」とするように、ニーズに応え、拡大、発展する養護教諭の職務の本質を検討することは必要であろう。そのためには、実際に養護教諭はどのようなニーズに応じてきたのか、また養護教諭に対しどのようなニーズを周囲は持っているのかを明確にする必要がある。

そこで、本研究では、養護教諭へのニーズに関する文献を収集・分析し、養護教諭へのニーズについて職務や役割の視点から整理し、養護教諭の職務に対するニーズについて検討するための基礎資料を作成することを目的とする。

II 方法

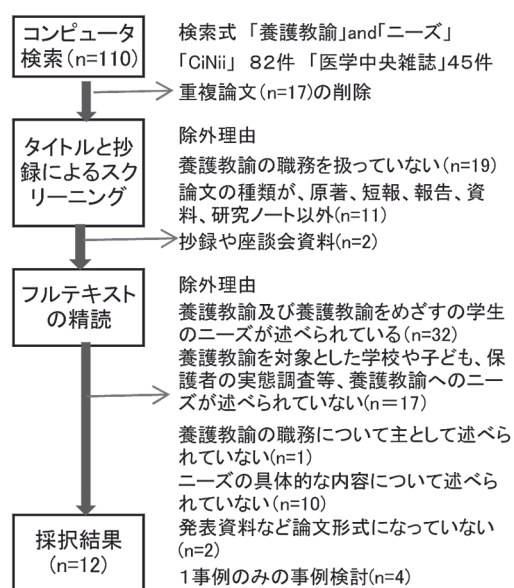
1. 検索の手順

国立情報科学研究協会で発行された「CiNii

(国立情報研究所論文情報ナビゲーター)』と医学文献データベースの「医学中央雑誌」の検索媒体を使用して文献検索を行った。検索は2014年2月までに出版された「養護教諭」と「ニーズ」をキーワードとした論文すべてを対象とした。

コンピューターによる検索後、タイトルと抄録でスクリーニングした。本レビューの採択基準は、①主として養護教諭の職務を対象としていること、②「養護教諭」「ニーズ」について述べられているもの、③研究誌、紀要などに掲載されている学術論文であることとし、重複論文がある場合は除いた。タイトルと抄録によるスクリーニング後、フルテキストを入手し、精読した。その結果、養護教諭を対象とした学校や子どもの実態調査や、具体的なニーズや養護教諭の職務について述べられていないものについては除外した。

図1 文献検索のフローチャート



2. 分析方法

タイトルと抄録によるスクリーニング後、フルテキストを入手し、採択論文を決定した。採択論文に記されている、養護教諭に対するニーズについて、掲載順に番号をつけ、研究方法・研究対象・研究内容について検討

した後、考察をもとに養護教諭へのニーズを抽出した。その後、養護教諭へのニーズについてKJ法によりカテゴリー分けを行い、さらにそのカテゴリーを、集約し、大カテゴリーを作成した。

Ⅲ 結果

1. 文献の概要

「養護教諭」「ニーズ」のキーワードを含む文献数は2014年2月現在、「CiNii」82件、「医学中央雑誌」45件であった。スクリーニングの結果、12件を採択した。

掲載された学会誌は「学校保健研究」2件、「日本養護教諭教育学会誌」1件、「学校健康相談研究」1件、「川崎医療福祉学会誌」1件の計5件であり、大学の紀要等は7件であった。

研究の方法及び対象は、質問紙調査が7件で、主な対象を、養護教諭としたものが2件、保護者・家族が2件、子ども（小・中・高校生）が3件であった。面接調査は4件で、養護教諭を対象としたものが1件、保護者・家族を対象としたものが3件であった（表1）。（内1件は質問紙調査と面接調査の両方を実施）

表1 養護教諭へのニーズに関する文献

文献番号	年	著者	表題	掲載誌	対象	方法	概要
1	1988	小倉学 綿引洋子	養護教諭に対する保護者のニーズ- -執務項目選択・要望内容を中心に-	学校保健 研究	保護者 784名	質問紙調査	保護者の養護教諭へのニーズを調査により明らかにした。養護教諭に力を入れてほしい執務項目として「健康相談」「けがの手当て」「内科看護」「病気の早期発見と担任との連携」が高率であった。養護教諭にもっとしてほしいことは子どもに対する指導、保護者との連携に関するものであった。
2	1994	鈴木基司 森田博 他	学校精神保健ニーズとその対応 -中学校養護教諭アンケート調査から	学校保健 研究	中学校養 護教諭 172名	質問紙調査	「生徒の問題行動や情緒に関する問題を認めた際、中学校保健室ではどのような対処がなされているか」調査した。養護教諭等による対処が有用と考えられる生徒は、障害度が中等度で、身体化症状を伴う情緒障害を有する者と考えられる。学校精神保健における保健室・養護教諭の位置づけが再確認される必要があろう。
3	1998	辻立世 業師寺 素子 他	日常的健康相談における主訴とヘル スニーズの関連について	日本養護 教諭教育 学会誌	高等学校 における相 談事例 1341事例	事例調査	保健室に身体症状や精神・心理的不安などの心身の不調で来た生徒の中で、健康相談的対応をした事例と、保護者・担任等から相談を受けた事例について、入室時の主訴と相談後の養護教諭が判断した問題（ヘルスニーズ）について分析・考察した。保健室における日常的健康相談は、心身に相関する内容で多く占められていることが明らかになった。
4	2001	梶岡 多恵子 下村 淳子 他	高校生の保健室利用と理想とする養 護教諭像の検討	愛知教育 大学養護 教育講座 研究紀要	高校生 1999年574 名 2001年553 名	質問紙調査	高校生が理想とする養護教諭について調査を行い、彼らの養護教諭に対するニーズを明らかにするとともに、経年的調査から読み取れるニーズについて検討を行った。結果、1999年、2001年とも「気軽に話す」「優しい」「明るい」が上位3項目であった。
5	2004	辻立世	高等学校における心身の健康実態と 支援体制の構築に関する研究	鈴鹿国際 大学発達 人間学論 叢	養護教諭 78名	質問紙調査 筆者の実践	高等学校における心身の健康問題を持つ生徒に対する教育的配慮並びに校内の組織的な支援体制の構築を検証した結果、健康問題をもつ生徒に必要な支援体制の構築は、養護教諭がコーディネータ役を果たし、校内で、特別委員会制度を設けて学校全体で取り組む方法が有効であった。
6	2005	野坂久美子 沖村幸枝 他	養護学校における児童生徒の医療 的ケアに関わる養護教諭のコーディネ ーション機能の実態 -宿泊を伴う校外学習の事例を通して-	川崎医療 福祉学会 誌	肢体不自 由養護学 校の養護 教諭1名(3 事例)	面接調査	養護教諭の職務の特質としての「コーディネーション」の機能を明確化し、どのようなシステム配置が必要かという、地域ケアシステムにおけるコーディネーション機能との有機的な連携コンセプトの一端を提示することを目的とした。養護教諭はケアシステムの中心となるコーディネーター的な役割を担っていた。
7	2007	横方恵美 葛西敦子	養護教諭の脊柱側弯の子どもへの支 援に関する研究-家族のニーズから の考察-	弘前大学 教育学部 紀要	家族 24名	質問紙を用 いた面接調 査	脊柱側弯症の子どもと家族の心配、学校との話し合い、学級担任・養護教諭・クラスメートの理解などを明らかにし、健康問題を持つ子どもに対する養護教諭の支援の在り方を考えることを目的とした。「養護教諭は家族と連携し、健康問題をもつ子どもを支援する存在である」ことを周知することが必要である。
8	2008	神田美咲 葛西敦子 他	養護教諭のてんかんの子どもへの支 援に関する研究-保護者のニーズか らの考察	弘前大学 教育学部 紀要	保護者 19名	質問紙調査 と面接調査	てんかんの子どもと学校の現状や子どもとてんかんについての保護者の考え、学校や養護教諭への要望を明らかにし、その結果をもとに養護教諭はどのような支援ができるのかを考察することを目的とした。発作時の対応とともに、養護教諭の働きかけによって配慮について教職員全員が理解し、学校全体で支援できる体制を作っていくことが子どものより良い学校生活につながる。
9	2009	加藤 和代 熊谷 恵美子	相談連携システムを生かす養護教諭 の役割の検討 -学校不適応行動を示す生徒の事例 を通して-	兵庫大学 論集	事例の記 録 3事例	事例検討	養護教諭の健康相談活動の視点から、相談連携システムを生かした学校不適応行動を示す生徒への支援の在り方を検討した。保健室の支援を一人一人の教育的ニーズに合わせて、校内の「教育相談」「生徒指導」「特別支援教育活動」に統合させていくことで相談連携システムが生かされた効果的な支援につながることを示唆された。
10	2009	山中寿江 松永恵 他	保健室に入室する子どもへの養護教 諭の対応に関する研究 第1報 -子どもの意識調査から子どもの ニーズを探る	学校健康 相談研究	小学生 567名 中学生 496名	質問紙調査	小・中学生を対象とする意識調査をもとに、今日の子どもたちが捉えている養護教諭像や保健室への期待を探ることにより、養護教諭の対応について省察的に分析し、その上で、子どものニーズを満たす対応や指導の在り方を考察することを目的とした。子どものニーズの把握に対して、受容し丁寧に対応したことに関して、子どもたちは「よかった」と感じていた。
11	2012	浦池千草 高木香奈	子供の求める保健室像、養護教諭像 についての調査研究	九州女子 大学紀要	小学生 238名 中学生 156名	質問紙調査	児童生徒が日常的に利用する保健室についての利用状況、児童生徒が求める保健室像や養護教諭像を明らかにし、今後の保健室運営を検討し、児童生徒の健康支援及び実践に生かすことを目的とした。求める養護教諭像は「優しい・明るい・頼れる・話しやすい先生」という認識を持っていた。
12	2012	中島育美 水内明子 他	発達障害児を持つ保護者の小学校 の養護教諭に対するニーズ	特別支援 コディ ネーター研 究	保護者 8名	面接調査	発達障害児の保護者が養護教諭にどのようなことを期待しているのか、保護者に対するインタビュー調査を通して明らかにすることを目的とした。調査の結果、子どもの特性を理解して関わる個別対応、子どもと保護者の思いを理解し繋げるコーディネート能力、きょうだい児、保護者に対するメンタル面での対応、入室しやすい保健室づくりが求められていることが示唆された。

2. 研究内容

それぞれの研究内容を分析し、各論文の考察で述べられている「養護教諭に対するニーズ」に関するキーワードを抽出した結果、95のキーワードが抽出され、24の категорияに分類した。そのcategoryを平成20（2008）年、中央教育審議会答申に述べられている養護教諭の役割及び保健室経営計画のてびき⁶⁾に示されている養護教諭の専門領域における職務内容を参考に、養護教諭の職務内容から、「救急処置」「疾病予防」「健康相談・健康相談活動」「保健教育」「保健室経営」「連

携・コーディネート」の大categoryを作成した。また、主に特別な教育的ニーズを持っている子どもに対しての支援や教育的配慮に関わる内容を含むものとして「教育的支援」を、作成した。さらに、子どもへの対応の際の「養護教諭の姿勢・態度」を加え、8つの大categoryを作成した（表2）。以下に、大categoryの概要を述べる。

表2 養護教諭へのニーズ カテゴリー一覧

	文献番号												表記のある 文献数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1 救急処置													4
1-1 外科的訴えの対応													
1-1-1 けがの手当て、けがの救急処置	○									○	○		
1-2 内科的訴えの対応													
1-2-1 具合が悪くなった子どもの看護(内科看護)	○												
1-2-2 病気の手当て										○			
1-2-3 具合が悪いときの救急処置											○		
1-3 緊急時の対応													
1-3-1 (てんかんの)発作時の対応								○					
1-4 養護教諭のスキル・態度													
1-4-1 けがの手当てを適切に行う										○			
1-4-2 子どもの気持ちを受け止め、優しく丁寧に対応										○			
1-4-3 救急処置の知識・技術											○		
2 疾病の予防・管理													4
2-1 疾病予防													
2-1-1 病気の早期発見	○												
2-1-2 心の問題などを早期発見												○	
2-1-3 養護教諭の観察		○											
2-2 疾病管理													
2-2-1 専門的立場から親への受診勧告					○								
3 健康相談・健康相談活動													7
3-1 相談内容													
3-1-1 心身の健康問題	○												
3-1-2 身体に関する内容			○										
3-1-3 心の悩み、悩み	○							○					
3-1-4 精神・心理的な不安、不安			○					○					
3-1-5 情緒障害		○											
3-1-6 神経症、心身症			○										
3-1-7 対人関係			○										
3-1-8 生活上の問題			○										
3-1-9 学習・進路の不安、悩み			○										
3-1-10 困ったとき相談に乗ってくれる											○		
3-2 相談対象													
3-2-1 児童・生徒		○	○					○		○	○	○	
3-2-2 担任			○										
3-2-3 保護者からの相談		○						○				○	
3-3 養護教諭のスキル・態度													
3-3-1 医学的知識と教育的素養を持つ			○										
3-3-2 生徒のサインを受け止め、適切に対処する			○										
3-3-3 瞬時にニーズを判断し、相談的対応をする										○			
3-3-4 日頃からの子どもの観察し、情報収集しておく										○			
3-3-5 人間的な関わりへの期待											○		
3-3-6 普段から関わり相談できる関係性の構築												○	
3-3-7 保護者も相談できる体制づくり												○	
3-3-8 カウンセリング能力・コミュニケーション能力											○		
4 保健教育													3
4-1 集団保健指導											○		
4-2 個別保健指導	○									○	○		
5 保健室経営													5
5-1 利用しやすく入りやすい場													
5-1-1 利用しやすい、来室しやすい					○						○	○	
5-1-2 明るい										○	○		
5-1-3 静か										○	○		
5-1-4 落ち着いている、落ち着く										○	○		
5-1-5 暖かい										○			
5-1-6 清潔											○		
5-1-7 快適										○			
5-2 学習の場・成長の場													
5-2-1 学習の場											○		
5-2-2 医療と教育の機能					○								
5-3 安心できる場													
5-3-1 心身両面の相談を受け入れる場			○										
5-3-2 心がほっとする場所					○								
5-3-3 健康相談活動の場					○						○		
5-3-4 安らげる場所、安らぎ											○	○	
5-3-5 パニック時の避難													○

養護教諭の職務に対するニーズに関する文献検討

	文献番号												表記のある 文献数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
6 連携・コーディネート													10
6-1 校内連携													
6-1-1 担任との連携			○		○	○				○			
6-1-2 校内の関係職員との連携					○								
6-1-3 授業担当者等との連携			○										
6-1-4 生徒指導主事										○			
6-1-5 教育相談活動担当										○			
6-1-6 特別支援教育担当										○			
6-1-7 管理職						○				○			
6-2 校内の他職種との連携													
6-2-1 看護師と連携						○							
6-2-2 スクールカウンセラーとの連携												○	
6-3 保護者との連携													
6-3-1 保護者との連携			○					○	○				
6-3-2 保護者との話し合い								○	○				
6-3-3 健康情報の共有									○				
6-3-4 子どもの様子を家庭連絡	○								○				
6-4 外部の専門機関との連携													
6-4-1 医療・主治医・医師との連携		○			○				○				
6-4-2 児童福祉施設との連携					○								
6-4-3 心理士との連携		○											
6-5 日々の連携													
6-5-1 日ごろから担任と関係づくりをする									○				
6-5-2 保護者と連携できることを伝える								○	○				
6-5-3 健康情報の共有									○				
6-6 コーディネート													
6-6-1 保護者と担任・学校をつなぐ									○				○
6-6-2 子どもと教職員をつなぐ													○
6-6-3 学校、保護者、学外の関係機関をコーディネートする													○
6-6-4 教職員間をコーディネートする													○
6-6-5 特別支援コーディネーターの役割						○							
6-6-6 ケアコーディネーションの検討							○						
7 教育的支援													8
7-1 直接支援													
7-1-1 個別支援、個性への配慮										○			○
7-1-2 特別な教育的支援					○								
7-1-3 心身の問題の質を見極めて支援する					○								
7-1-4 自尊感情を高める。自己肯定感を下げない										○			○
7-2 間接支援													
7-2-1 よい環境を整える推進役								○					
7-2-2 周囲の疾病への理解を促す働きかけ									○				
7-2-3 支援を見極める									○				
7-2-4 専門的立場から担任に連絡・助言	○								○				
7-3 組織的対応													
7-3-1 校内の情報共有・共通理解			○		○				○				○
7-3-2 教育的ニーズを共有する										○			
7-3-3 支援体制の構築、体制づくり		○			○				○				○
7-3-4 役割分担、役割の明確化					○								
7-3-5 学校全体の組織体制で支援					○								
7-3-6 保健室登校					○								
7-3-7 支援・連携体制の推進役		○											
8 養護教諭の姿勢・態度													4
8-1 姿勢・態度													
8-1-1 やさしい	○			○							○	○	
8-1-2 子どもを受け入れる。子どもを受けとめる											○	○	
8-1-3 気軽に話す、話しやすい				○								○	
8-1-4 明るい				○								○	
8-1-5 一人一人を大切にす姿勢												○	
8-1-6 頼れる												○	

1) 救急処置

救急処置は、訴えの内容から「外科的訴えの対応」「内科的訴えの対応」「緊急時の対応」、及び、対応にあたり養護教諭に求められることとして「養護教諭のスキル・態度」の4カテゴリーからなり、4論文に表記があった。「外科的訴えの対応」「内科的訴えの対応」は、3論文で表記があった。「緊急

時の対応」は、1論文で表記があった。「養護教諭のスキル・対応」は、2論文で表記があった。

2) 疾病予防・管理

疾病予防・管理については、「疾病予防」と「疾病管理」の2カテゴリーからなり、4論文に表記があった。「疾病予防」は、3論文で「疾病管理」では1論文で表記があった。

3) 健康相談・健康相談活動

健康相談・健康相談活動については、「相談内容」「相談対象」及び、健康相談・健康相談を行うときに求められる「養護教諭のスキル・態度」の3カテゴリーからなり、7論文で表記があった。「相談内容」については5論文で表記があった。「相談対象」は、6論文で表記が見られ、そのうち「児童生徒」が6論文、「担任」が1論文、「保護者」が3論文であった。「養護教諭のスキル・態度」については、4論文で表記が見られた。

4) 保健教育

保健教育については、「集団保健指導」「個別保健指導」のカテゴリーからなり、3論文で表記があった。「集団保健指導」は、1論文で、「個別保健指導」は、3論文で表記が見られた。

5) 保健室経営

保健室経営については、5論文で表記があった。塩田の「学校における保健室の場が持つ特性」⁷⁾を参考に「利用しやく入りやすい場」「学習の場・成長の場」「安心できる場」の3カテゴリーからなる。「利用しやく入りやすい場」は、4論文で、「学習の場・成長の場」は、2論文で、「安心できる場」は5論文で表記があった。

6) 連携・コーディネート

連携については、連携の対象別に「校内連携」「校内の他職種との連携」「保護者との連携」「外部の専門機関との連携」の4カテゴリーと、生徒指導資料⁸⁾を参考に「日々の連携」、中央教育審議会答申¹⁾を参考に「コーディネート」を加えた6カテゴリーからなり、10論文で表記があった。

「校内連携」は4論文で表記が見られた。特に「担任との連携」については4論文すべてに表記が見られた。「校内の他職種との連携」は、2論文に「保護者との連携」は、4論文に表記が見られた。また、「外部の専門機関との連携」は3論文に表記が見られ、特

に、医療機関との連携は、3論文全てで表記が見られた。さらに、「日々の連携」は、2論文で、「コーディネート」は、4論文で表記が見られた。

7) 教育的支援

教育的支援は、主に特別な教育的ニーズを持っている子どもに対しての支援や教育的配慮に関わるものが含まれる。「直接支援」「間接支援」「組織的対応」の3カテゴリーからなり、8論文で表記が見られた。「直接支援」は、3論文で、「間接支援」は、3論文で、「組織的対応」は、6論文で表記が見られた。

8) 養護教諭の姿勢・態度

「養護教諭の姿勢・態度」については、4論文で表記が見られた。

IV 考察

それぞれの研究内容を分析し、各論文の考察で述べられている養護教諭に対するニーズに関するキーワードを抽出した結果、「連携・コーディネート」に関するニーズ「教育的支援」に関するニーズ「健康相談・健康相談活動」に関するニーズの順で記述が多かった。

養護教諭は、救急処置、健康診断、疾病予防などの保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動など、専門領域における職務や、健康課題の解決のためのコーディネーターとしての役割のみならず、教育職として「教育的支援」についてのニーズも高いことが示唆された。また、「健康相談・健康相談活動」についての記述が多いことから、近年の子どもの心の健康問題等の深刻化に伴い、養護教諭の心の健康問題への対応のニーズが高いことがうかがわれる。

以下に、養護教諭へのニーズについて、取り上げられている頻度の高いカテゴリーについて考察する。

1. 連携・コーディネートへのニーズ

中央教育審議会答申¹⁾及び学校保健安全法第10条でも記されている通り、学校保健を推進する上で、学校内外の関係者及び関係機関との連携は重要であり、養護教諭が担う役割も大きい。本論文の文献検討の結果、養護教諭は、特に学級担任、保護者、医療・医師との連携が求められていることが示唆された。

学級担任との連携については、事例調査（文献番号3、9）及び養護教諭を対象にした調査（文献番号3、6）で表記が多かった。学級担任は、子どもの個性や家庭事情、学級や学校における人間関係など多くの情報をもっており、子どもの日常の姿や学校生活の状況を最もよく把握している⁹⁾。子どもの訴えの背景に、心理・社会的問題がある場合も多いことから、養護教諭が子どもを支援するには、子どもや子どもを取り巻く環境を知り、子どもと直接関わる機会の多い学級担任との連携は必須であろう。

保護者との連携については、主に保護者を対象とした調査（文献番号1、7、8）で表記が多かった。保護者との連携は担任が第一に行う立場である¹⁰⁾。そのため、養護教諭は、担任を窓口として、保護者と連携を図ることが多いと考えられる。しかし、脊柱側弯症の子どもの保護者への調査（文献番号7）やてんかんの子どもの保護者への調査（文献番号8）に関する論文において、養護教諭との連携に対するニーズに関する記述が多くみられたことから、特に心身の健康に問題を抱える子どもの保護者は、養護教諭と連携を図りたいというニーズがあることが分かった。

外部機関との連携については、医療機関との連携についてのニーズが高い傾向にある。子どもの心身の健康問題が多様化し、医療の支援を必要とする事例も増えていることから¹¹⁾、疾病の治療・予防に当たる医療機関との連携は重要である。養護教諭が連携する外部機関で最も多いのは医療機関であるという調

査結果もある¹²⁾。養護教諭はその職務の特質から、医療機関との連携に当たり、中心的な役割を担う必要があると考えられる。

さらに、学校内及び地域の医療機関等との連携を推進する上で、養護教諭にはコーディネーターとしての役割が求められている¹⁾。本研究でも、2004年以降の4論文（文献番号5、6、8、12）で、養護教諭のコーディネートについて述べられており、近年、重要な役割となっていることが示唆される。不登校、医療的ケア、発達障害などの児童生徒一人ひとりに対応できる教育を求め実践していくには、教師個々の力だけでは無理が生じている¹³⁾。子どもを中心におき、子どもを取り巻く様々な人・機関が連携し協同するために、養護教諭のコーディネーターとしての役割は今後ますます重要になるであろう。

2. 教育的支援へのニーズ

養護教諭に対して、心身の健康問題や特別な教育ニーズを持つ子どもへの「教育的支援」に関するニーズがあることが分かった。三木は「養護教諭の『養護』の基本的な機能的概念は、教育的機能及び専門的な機能がその基盤にある」としている。養護教諭は、専門職であるとともに教育職としての役割が求められていると考えられる。しかし、教育的支援に関する記述は、養護教諭、保護者を調査対象とする文献（文献番号1、2、3、5、8、9、12）に多くみられたが、子どもを調査対象とする文献には見られなかった。これは、子どもにとって、養護教諭の教育的支援が見えにくいことに加えて、養護教諭を他の教員と異なる専門的な職種としての認識していることが考えられる。

養護教諭が行う教育的支援には、直接支援のみならず、間接支援や組織的対応があることがわかった。特に、組織的対応については多くの文献で記述が見られた。

心身の健康問題を抱える子どもへ支援をす

る際は、「学級担任等や養護教諭が一人で問題を抱え込むことなく、どのように対応していくべきか等学校内で情報を共有し、早い段階から組織的に支援していくことが大切¹¹⁾」であり、「組織的対応をするためには、支援体制づくりが大切である¹¹⁾」。本研究でも、養護教諭が組織的対応をするために、支援体制づくりと校内の情報共有・共通理解に対するニーズが高いことが示唆された。

養護教諭はその職務の特性から、何らかの健康問題を抱えた子どもへの対応も多い。健康問題の解決にあたっては、直接支援のみならず、周囲の人へ働きかけ、環境を調整する等の間接支援も今後一層求められるであろう。また、「子どもが抱える健康問題の中には、個々の学校や養護教諭の努力では変えられない問題もある。目の前の子どもにみられる健康問題を考えるならば、個々に対応できる問題なのかそうでないかを判断し、それぞれに適する対策を講じていくことが、養護教諭に課されている重要な課題である¹⁴⁾」という指摘もある。養護教諭は、問題を見極め、抱え込むことなく、組織的に対応することが必要である。そのためには、「支援体制づくり」「共通理解」を図りながら「役割分担」をして支援することが重要である。

3. 健康相談・健康相談活動へのニーズ

健康相談・健康相談活動については、7論文でニーズが述べられていた。健康相談活動は、1997（平成9）年の保健体育審議会答申において、養護教諭の新たな役割として提言された。その後、2008（平成20）年の学校保健安全法の改正により、養護教諭は健康相談を行うことが規定され、養護教諭の重要な職務となっている。しかし、健康相談のニーズについての論文は1988年から発表されており、答申以前から養護教諭の行う健康相談へのニーズがあったことがわかる¹⁵⁾。三木は健康相談活動の誕生について「従来はこの役割が

必要でなかったという訳ではなく、近年、特に心の問題が深刻化し、心と体の両面からの対応が今まで以上に期待されたものである」とするように、健康相談・健康相談活動は、養護教諭が子どものニーズに応えるなかで、拡大・深化した職務であることがうかがわれる。

相談の内容は、心身の健康問題以外も、生活上の問題や対人関係の悩み、学習・進路の不安、困ったときの相談など多様な相談が寄せられていることがわかる。中でも、不安や悩みについての相談内容は多い（文献番号1、3、8）。しかし、日常の健康相談における来室時の主訴は、生徒のヘルスニーズと一致しない場合がある¹⁶⁾。子どもの話を丁寧に聞き、身体症状のある場合は的確に判断し、子どものサインを見逃さない対応が求められるであろう。

また、健康相談の対象は、児童・生徒のみならず、子どもの健康問題について担任や保護者からの相談ニーズがあることが分かった。特に、疾病や障害を持つ子どもの保護者は、子どもの健康問題にのみならず、保護者自身の精神的支えを期待していた（文献番号12）。保護者の安定が子どもの心身の安定につながる場合は多い。子どもへの間接的な支援として、保護者の相談に乗ることも重要であろう。しかし、職務の現状を振り返ると、「本務」だけでも多忙である上に他の役割を期待されてますます多忙を極めてしまう²⁾といった懸念もある。発達障害を持つ子どもの保護者が、発達支援相談センターから支援を受けたことで安定し、子どもが学校生活に適応した事例もある¹⁷⁾。養護教諭は、保護者への支援の質と量を見極め、必要に応じて学校カウンセラーや地域の福祉サービスと連携し、支援の橋渡しをすることも重要であろう。

V まとめ

養護教諭へのニーズは、「救急処置」「疾病予防」「健康相談・健康相談活動」「保健教育」「保健室経営」「連携・コーディネート」といった専門職としての職務や役割に関するニーズと、「教育的支援」といった教育職としての職務に関するニーズ及び「養護教諭の姿勢・態度」に関するニーズがあった。中でも特に「連携・コーディネート」「教育的支援」「健康相談・健康相談活動」についてのニーズに関する記述が多い。

「連携・コーディネート」では、養護教諭は、学級担任、保護者、医療・医師との連携を求められており、特に、校内連携では学級担任との連携ニーズが高いことが示唆された。また、「教育的支援」では、組織的対応についてニーズが高いことが示唆された。養護教諭は、問題を見極め、抱え込むことなく、組織的に対応することが必要である。そのためには、「支援体制をつくり」「共通理解」を図りながら「役割分担」をして支援することが重要であることが示唆された。複雑化・多様化する子どもの健康問題の解決に向け、養護教諭は校内外の人や機関と連携しながら組織的に対応していくことが必要である。

さらに、子どもの健康問題に、心の健康が深く関わることから、養護教諭の健康相談・健康相談活動へのニーズが高いことが示唆された。

引用文献

- 1) 文部科学省. 中央教育審議会答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について(答申)」〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/08012506/001.pdf〉2014.6.14閲覧。
- 2) 山田小夜子、橋本廣子. 養護教諭の職務の現状に関する研究. 岐阜医療科学大学紀要. 2009;(3):77-81.
- 3) 鈴木裕子. 養護教諭の歴史とアイデンティティに関する研究—養護概念の変遷の検討を中心に. 障害・医学・教育研究会誌. 2002;4:131-198.
- 4) 森昭三. 変革期の養護教諭—企画力・調整力・実行力をつちかうために—. 228. 東京:大修館書店;2002.
- 5) 三木とみ子. 四訂養護概説. 4. 東京:ぎょうせい;2009.
- 6) 日本学校保健会. 保健室経営計画作成の手引. 6-8. 東京:日本学校保健会;2009.
- 7) 塩田瑠美. 養護教諭と保健室. 大谷尚子. 新養護学概論. 42-46. 京都:東山書房;2009.
- 8) 国立教育政策研究所. 生徒指導資料第4集 学校と関係機関等との連携—学校を支える日々の連携—. 6-7. 東京:東洋館出版;2011.
- 9) 文部科学省. 生徒指導提要. 138. 東京:教育図書;2010
- 10) 小林冽子. 組織活動の運営. 大谷尚子. 養護学概論. 155-156. 京都:東山書房;2003.
- 11) 文部科学省. 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き. 18. 東京:文部科学省;2011
- 12) 佐藤美幸、中村恵子、塚原加寿子、他. 子どもの心の健康問題における学校と外部機関との連携に関する研究. 新潟青陵学会誌. 2013;6(3):71-78
- 13) 岡本啓子、津島ひろ江、小海節美. 我が国における養護教諭のコーディネーションに関する研究動向. 川崎医療福祉学会誌. 2008;18(1):255-262
- 14) 前掲4). 59
- 15) 三木とみ子. 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際. 4. 東京:ぎょうせい;2013
- 16) 辻立世、薬師寺素子、西谷鎮子、他. 日常的健康相談における主訴とヘルスニーズの関連に

ついて. 日本養護教諭教育学会誌. 1998; 1(1): 59-68

- 17) 塚原加寿子、中村恵子、伊豆麻子 他. 子どもの問題行動に関する学校と外部機関との連携プロセスのモデル化－生徒指導主事への面接調査から－. 新潟青陵学会誌. 2013; 6(3):59-69

文献

小倉学、綿引洋子. 養護教諭に対する保護者のニーズ－執務項目選択・要望内容を中心に－. 学校保健研究. 1988;30(2):78-84

鈴木基司、森田博、松下珠代、他. 学校精神保健ニーズとその対応 中学校養護教諭アンケート調査から. 学校保健研究. 1994;36(5):301-309

梶岡多恵子、下村淳子、上川さと子、他. 高校生の保健室利用と理想とする養護教諭像の検討. 愛知教育大学養護教育講座研究紀要. 2001; 6(1): 33-38

辻立世. 高等学校における心身の健康実態と支援体制の構築に関する研究. 発達人間学論叢. 2004; 7 :81-96

野坂久美子、沖村幸枝、津島ひろ江. 養護学校における児童生徒の医療的ケアに関わる養護教諭のコーディネーション機能の実際－宿泊を伴う校外学習の事例を通して－. 川崎医療福祉学会誌. 2005;15(1):123-133

棟方恵美、葛西敦子. 養護教諭の脊柱側弯の子どもへの支援に関する研究－家族のニーズからの考察－. 弘前大学教育学部紀要. 2007;(98): 107-115

神田美咲、葛西敦子、野村由美子. 養護教諭のてんかんの子どもへの支援に関する研究:保護者のニーズからの考察. 弘前大学教育学部紀要. 2008;(100):75-87

山中寿江、松永恵、大谷尚子、他. 保健室に来室する子どもへの養護教諭の対応に関する研究 第1報 子どもの意識調査から子どものニーズを探る. 学校健康相談研究. 2009; 6(1):59-72

加藤和代、熊谷恵美子. 相談連携システムを生かす養護教諭の役割の検討－学校不適応行動を示

す生徒の事例を通して－. 兵庫大学論集. 2009: (14);41-47

中島育美、水内明子、水内 豊和. 発達障害児を持つ保護者の小学校の養護教諭に対するニーズ. 特別支援教育コーディネーター研究. 2012;(8):65-70

浦池千草、高木香奈. 子どもの求める保健室像、養護教諭像についての調査研究. 九州女子大学紀要. 2013;49(2):109-125